

令和3年度トヨタ工業学園卒業式 豊田社長あいさつ全文

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この場にご家族のお姿はありませんが、カメラの向こう側で、皆さんの晴れ姿を見て喜んでおられると思います。

ご家族の皆様、このたびはおめでとうございます。

いま、私の前には、ピンと背筋をのばし、透きとおった瞳で、私を見つめ、未来を見すえている卒業生の姿があります。

入学式のときのどこか不安げだった姿はもうどこにもありません。見違えるほど、たくましく、頼もしくなりました。

これもひとえに、ご家族の皆様のお支えがあったからだと思います。心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、高等部は3年のうち2年間、専門部は1年の学園生活のすべてをコロナ禍で過ごしました。

それでも皆さんは下を向くのではなく、「今の自分たちができること」を考え、行動してくれました。

「お世話になっている地域の皆様に恩返しをしたい」。その思いから、高等部の皆さんは、公園や河川敷、専門部の皆さんは、集会所や里山の清掃活動に取り組んでくれました。

暑い中、また雨の中、慣れない鎌を手に、生い茂る草を取り除き、見違えるようにキレイにしてくれました。

この活動を取り上げた地元の広報誌の記事では、最後にこんなことを言うていただきました。

「コロナ禍で鬱蒼としていた街並みだけではなく、我々の心の汚れも清めていただいた気がします」。

記事の中で、その理由が説明されていました。

1時間かけて歩いて来て、疲れているだろうに、誰もが明るく元気にあいさつをする。みんなで一列に並び、黙々と作業し、徹底的にキレイにする。

取材してくれた方は、皆さんのひたむきな姿勢を見ているうちに感謝の気持ちと感動で、涙が出てきたそうです。

「誰かのために」一生懸命頑張っていただき、本当にありがとうございました。

また、生徒会活動にも、新しい流れをつくってくれました。

学園生は、自ら学び、自ら成り立たせる姿勢を大事にしなければならない。

そんな思いから、生徒会の名前を、「学び」に「成る」と書いて「学成会」に変えたいと提案してくれました。学園史上、初めての提案だったそうです。

「学成会」の名前とともに、皆さんの想いは学園の伝統として受け継がれてまいります。

後輩たちに、大切なものを残していただき、ありがとうございました。

地域の清掃活動と生徒会の改革。

皆さんの行動のベースには学園生活で徹底的に学び、実践してきた、トヨタの「思想」と「技」と「所作」があと感じました。

「思想」とは、トヨタフィロソフィーで示した「幸せの量産」です。その実現のためには、自分以外の誰かのために動き、最後までやり抜く「強くて優しい心」が必要です。

「技」とは、言うまでもなく、「TPS」です。誰かの仕事を楽にするために「もっといいやり方」を常に考え、日々改善を続けることです。

そして、「所作」。皆さんがいつも実践している「トヨタウェイ」がこれに当たります。

「誠実に行動する」「仲間を信じる」「ありがとうを声に出す」。

「思想」と「技」を身につけるためには、こうした日々の過ごし方がとても大切になります。

職場に配属されてからも、「思想」「技」「所作」を大切に、1日1日を過ごして欲しいと思います。

そして、困っている誰かのために動く「強くて優しい人」になってください。皆さんなら、必ずできます。

ご家族の皆様、大切なお子様を私どもにお預けいただき、ありがとうございました。

これからは、トヨタを支える人財として、その人生が笑顔にあふれ、幸せなものになるよう、私自身、全身全霊でサポートしてまいりますので、どうかご安心ください。

最後になりましたが、本日、ご参加いただいております皆様の変わらぬご支援を心よりお願い申し上げまして、私からのお礼とお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございました。